

情報リテラシー教育 5つの基本

情報リテラシー教育について、中学校区ごとに考えることは非常に重要です。東部中学校区の小中6校の教師たちが集まり、研修会を開催しました。この研修会では、伊那市の学校教育課と連携し、伊那市ICT活用教育推進センターのメンバーである浅利美美さんが講師を務めました。彼女は地域おこし協力隊の一員であり、教職員の負担を軽減する提案やICT活用に関するノウハウの共有、資料の作成、そして子どもたちの学習現場をサポートするお手伝いを行っています。

昨年度のICTカンファレンスの講演会でも「デジタル・シチズンシップ（情報技術の利用における適切で責任ある行動規範）」について話題になりました。しかしそれ以前の問題として、超基本的なルール・モラル・マナーが身についているでしょうか。

・ **学習用iPadのルール（基本）** iPadの使い方の指導をする上では、低学年では両手で持つことや姿勢を正しくするなどの指導が必要です。高学年になるに従って、「学習用」のiPadとしての価値と意義が理解できるようになっていきます。上級生に向かうに従って、「学習用とはどういうことなのか」を意識させることができるようになります。私の授業では、「学習」とは何かを考え、可視化するような展開をしています。

・ **肖像権とモラル（道徳）** 低学年からトラブルの発生しやすい事象です。自分のものと他人のものという意識を明確にする必要があります。自分が無許可で撮られることに慣れてしまうと、つい他人に対しても同様に振る舞いがちです。撮影も共有も、許可や確認をとることを習慣づける必要があります。

・ **個人情報（情報発信やSNS利用）** 個人情報と「私らしい情報」を区別することが大切です。おおぜいの中から、自分を特定できる情報のことを個人情報といいます。私だけでなく他の人にもあてはまることだと、その情報だけで誰か特定できません。「私らしい情報」を表現することは悪いことではありません。

・ **メディア・バランス（長時間利用）** 家庭での長時間利用について、たいいては自分自身で問題意識を持っています。簡単にクリアできる目標を立てさせて実行させるのが良いでしょう。

・ **セキュリティとパスワード**

※「ICT活用教育 NO.56」に詳細があります。

「東部中学校区研修会」での浅利美美さんの研修をもとに推進センターで編集させていただきました。



長野県伊那市 小中学校カリキュラム デジタル・シチズンシップ教育

楽しく使うためにルールがあることを理解する 自分でルールを設定する ルールをあたりまえ化する ルールを取捨選択して運用する

小学校低学年 小学校中学年 小学校高学年 中学校

SNSとコミュニケーション

- 適切な言葉使いや態度を意識する
- チャットを練習体験する
- ネットでの出会いのリスクを知る
- 「私らしい情報」を発信する
- 「デジタル足あと」を知る
- ネットいじめや犯罪を考える

メディアバランスと長時間利用

- 健康への影響
- メディアの種類と特性
- タイムマネジメント

自分や他人を守る知恵

- 自分と他人は考えが違うことがあると理解する
- 個人情報
- パスワード生成と運用
- 検索のコツ
- 情報元の見極め
- フェイクニュース
- なりすまし
- 操作された情報提供（アルゴリズム、レコメンド）
- ネットを利用した犯罪事例

撮影や画像データの扱い

- 撮影前には許可をとる
- 送信前には許可をとる
- データの共有や共同編集を楽しむ
- 光や構図を意識した効果的な撮影をする
- 肖像権について知る
- 著作権について知る

学習用端末の基本

- 正しい姿勢で利用する
- 「1人1台持ち」の前提を理解する
- 「大切に使う」を具体的に考えて行動する
- 端末や環境整備のコストを知る
- 「学習」とは何かを考えて利用する
- 自発的に利用を提案する

学習用端末の基本

小学校入学後の早い時期に学習用端末を使う機会を設け、基本的な扱い方とルールを理解させ、物損リスクを軽減します。

低学年には「大切に使う」どのように扱えばいいか」を具体的な方法を挙げながら指導します。中学年以上は「学習で使う」とはどんな場面が考えられるか」児童生徒自身が考え、利用に合ったシーンを判断できるようにします。プライベート端末との違いを明確に理解して、娯楽利用や設定変更を行わないようにします。将来的には、教師から与えられる機会だけでなく自分たちで活用するシーンを見つけて提案するような自発的な利用を目指します。

撮影や画像データの扱い

低学年では友人同士の撮影やデータの共有について考え、話し合います。撮られることが平気な人もいれば苦痛に感じる人もいます。顔や姿や個人情報は人のものであることを理解させます。そして撮影ルールを意識して、友人同士で撮影したり編集したりしながら、創造の楽しみを体験しながらスキルを伸ばします。

中学年以上は社会科見学などの場面でのマナー、高学年以降は肖像権・著作権について事例を紹介しながら伝えていきます。社会性を身につけ、他人や自分の権利を守る意識を高めていきます。

メディアバランスと長時間利用

悪い姿勢での利用や長時間利用によって、目や脳、心身に影響があることを理解させます。その上で、児童生徒自身がクリアできる現実的な目標を立てさせ、段階的な改善に向けた自走を促します。

「ノーマedia」を徹底するのではなく、自分に合うメディアを選択して前向きに活用していく力を育みます。

自分や他人を守る知恵

低学年では人によって「されたいいやなこと」「されても平気なこと」が異なることを理解させます。自分は面白く感じるようなことでも勢いで行わず、足を止めて考えることを徹底して指導します。

中学年以上は個人情報とは何かを説明します。個人情報漏れた場合の危険を考えさせると同時に、個人を特定しない「私らしい情報」との違いを理解し、発信するものが危険なわけではないことを伝えます。また、パスワードの重要性を実践を通じて理解し、児童生徒自身が生成して運用できるようにします。

インターネットには古い情報や「なりすまし」やフェイクニュースがあり、信頼できるかを見極める方法を伝え、判断力を育みます。個人情報や行動履歴をもとに情報提供の操作（アルゴリズム）が働いていることを伝えます。

不正ログインや偽情報の発信、匿名での誹謗中傷、個人情報売買や闇バイトなど、犯罪につながる行為があることを理解させます。

SNSとコミュニケーション

SNSの多くは13歳未満は利用できません。プライベート端末でSNSを始める前に、なぜ自分がSNSを利用したいかを整理させて、SNSとの接し方や効果的な利用について考える機会を設けます。

学級でチャット練習を実施し、文字だけのやりとりの難しさや、複数人数での発言のしにくさ、匿名の方が気が大きくなることなどを体験させます。家庭ではまずは家族との練習を勧めます。

高学年以降では、情報を鵜呑みにしないで慎重に考える態度、信頼性を判断できる力を育みます。また、自分のSNS発信が引き起こすリスクを理解し、犯罪やトラブル事例についても理解させます。

2024.05.24
伊那市教育委員会 伊那市ICT活用教育推進センター

探究的な学び

先進的な学び

個別最適な学び
協働的な学び
自立的な学び

子どもと共に
未来を創る教員

伊那市では「学校教育情報化ビジョン2024」をもとに、iPadを導入して「ICT活用教育」を推進しています。